

戦後・被爆 80 年

脅しでなく対話を👍 日本共産党



昨年12月のノーベル平和賞授賞式で演説した日本被団協代表委員の田中熙巳（てるみ）さんと日本共産党の田村智子委員長が、「しんぶん赤旗」日曜版の新年号で新春対談をしています（左）。

受賞理由は、核兵器の非人道性を訴え、核兵器を二度と使わせてはならないという世論を国際的に築き、戦後80年間、戦争で核兵器を使わせてこなかったというもの。あわせて、ノーベル委員会のフリードネス委員長は、ロシアやイスラエルの指導者が核兵器を使う可能性を口にしていることについて、核兵器の使用を許さない世論を私たちみなでつよめていこう、「私たちの生存は、それにかかっている」と授賞式で呼びかけました。

田中熙巳さんは、新春対談で『核抑止』『核共有』の考え方は間違っている」「（核兵器で）脅かすんじゃなくて、やっぱり話し合いをしてほしい。日本はそのために努力しなくちゃいけない」と語っています。

👍 100年で一番うれしかったこと

昨年末のNHKの番組で紹介された、100歳×100人アンケート。

「100年で一番うれしかったことは？」の問いに、一番多かったのは、「戦争が終わったこと」。「無事に生還できたのが一番うれしかった」「無事に帰った自分の姿を、家族がみて涙してくれたのが一番うれしかった」。なかには、「健康長寿の秘けつは、日本が平和であったこと」との回答も。スタッフは「平和の大切さを感じさせる結果となりました」とのべています。

憲法9条をいかに 対話の外交を

半世紀にわたって戦争を題材にした漫画を描き続けた故松本零士さんは生前、次のように語っています。「陸軍のパイロットだった父に、生きるために命は生まれるんで、死ぬために生まれてくる命などはないと、はっきり言われた。争いあって殺しあわなきゃいけないのは悲劇です。だから私は、いま地球上で争っている場合じゃないと思っている」と。



北九州空港が

戦争の出撃拠点に



国土交通省北九州港湾・空港整備事務所HPより

昨年4月、北九州空港の軍事利用をする枠組みが、市議会にも市民にも知らされないまま、国と武内和久市長の同意だけでつくられました。昨年10月には、台湾有事に自衛隊が参戦するという想定の日米共同演習で、北九州空港でも軍事訓練がおこなわれました。

政府は、「航空自衛隊基地が攻撃されてつかえない事態を想定」しての訓練といいます。自衛隊築城基地（行橋市・みやこ町・築上町）は、沖縄の米軍基地が攻撃されてつかえなくなったとき、米軍機の出撃拠点とする整備がされ、核攻撃に備えた司令部の地下化もすすめられています。その築城基地も攻撃されたら、北九州空港を出撃拠点にするというのです。

「長崎原爆の第一目標が小倉だったことを重く受け止め」

「核兵器の廃絶と平和な世界の実現のために歩み続けることを誓い」

——「北九州市非核平和都市宣言」（2010年2月10日）より

「私たち北九州市民は、長崎に投下された核兵器の第一目標が小倉であったことを重く受け止め、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを、次の世代に伝え、核兵器のない、戦争のない、平和な世界を築いていかなければなりません。よって、私たちは、命と平和の大切さを深く認識し、核兵器の廃絶と平和な世界の実現のために歩み続けることを誓い、ここに北九州市を非核平和都市とすることを宣言します」



「非核平和宣言」の立場で

北九州空港の軍事利用に NOと言える党を

なぜ、北九州市が長崎に投下された核兵器の第一目標だったのか——それは、戦前、北九州市が重要な軍都だったからです。北九州市民を戦火にさらす道をふたたび歩んでいいのでしょうか。

ところが、日本国憲法と「北九州市非核平和都市宣言」の立場で、北九州空港の軍事利用などについて市議会でモノを言っているのは、日本共産党だけです。平和のために力をあわせましょう。

「日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める意見書」否決

2024年12月市議会、日本共産党提出（自民・公明・維新など反対）

1月26日
北九州市議選



門司区
高橋
みやこ



小倉北区
大石
正信



小倉北区
出口
しげのぶ



小倉南区
うど
浩一郎



若松区
山内
りょうせい



八幡東区
きた
しおり



八幡西区
永井
ゆう



八幡西区
いとう
淳一



戸畑区
荒川
とおる